



水遊びできる？できない？

症状が治まった後もウイルスが排せつされる病気もあり、元気に見えても注意が必要です。水遊びの際の注意点をあげましたので、目安にしてください。
また、受診した場合は水遊びについて必ず医師に確認してください。

○…水遊び可

△…医師に相談後、水遊び可

×…水遊び不可

手足口病	△	水遊びの感染よりも日常生活で感染する機会のほうがずっと多いため、登園の許可が出れば水遊びも可能です。発疹の状態によっては控えたほうがよい場合もあるので医師に相談して下さい。 症状が軽快してからも1ヵ月くらいは便や唾液からウイルスが少量排せつされます。水遊び前に排便があった場合、その日の水遊びは控えます。
ヘルパンギーナ	△	発熱、のどの痛みがなくなり、食欲が戻ったら登園できます。受診の際に水遊びについてもご確認下さい。
水いぼ	△	水いぼの部分はTシャツなどで覆って下さい。 (数が少ない場合は水に強い絆創膏などの利用も可)
	×	水いぼがつぶれ、浸出液が出ている場合は水遊びはできません。感染予防のため自宅からしっかり覆って登園して下さい。
とびひ	×	水で皮膚がふやけると悪化しやすいので、皮膚の保護のためにも水遊びは避けましょう。登園届が必要になりますので、水遊び可能な時期については医師に確認をお願いします。
頭ジラミ	×	髪の毛の接触で感染します。皮膚科を受診し、駆除を開始すれば水遊びは可能です。
咽頭結膜熱(プール熱)	×	感染すると登園停止。登園には医師の許可証が必要です。伝染性が強く、ゴーグルやタオルの共有でうつことがあります。
流行性角結膜炎	×	感染すると登園停止。登園には医師の許可証が必要です。ゴーグルやタオルの共有でうつことがあります。
アレルギー性結膜炎	△	症状が落ち着いていれば水遊びは可能です。(充血、目ヤニあれば不可)
急性中耳炎	×	耳垂れや痛みなど、症状がある間は水遊びはできません。
滲出性中耳炎	○	症状が安定していれば水遊びも可能なことが多いので、定期的に耳鼻科を受診し、医師に相談して下さい。
	×	発熱や耳の痛みを訴える場合は水遊び禁止です。
外耳炎	×	傷が治り、外耳の炎症が治まるまで水遊びはできません。
副鼻腔炎	×	鼻の奥の痛みがある時や、黄色い鼻水が出ている間は水遊びは避けたほうがよいので、医師と相談して下さい。
アレルギー性鼻炎	○	ほかに症状がなければ水遊びは可能です。
細菌性腸炎 (腸管出血性大腸菌感染症)	×	発病すると登園停止。登園には医師の許可証が必要です。 この大腸菌は低温に強く、水の中で長く生存し、ごく少量の菌で感染してしまうので、診断された場合は必ず園にもお知らせ下さい。
ウイルス性胃腸炎 (感染性胃腸炎)	×	下痢の症状が治まるまでは水遊びはできません。

※ホクナリンテープで加療中の場合は水遊びはできません。またホクナリンテープを貼って登園し、保育中に、はがれてしまった時は、他のお子さんの持ち物に紛れてしまう事のないよう園で処分させていただきます。